

令和5年7月7日

清水町議会議長 山下 清美 様

清水町議会議員 山本 奈央

研 修 報 告 書

清水町議会議員研修要綱第6条の規定により、次のとおり成果を報告します。

記

- 1 研修名（主催者）.....北海道町村議会議長会議員研修会（北海道町村議会議長会）
- 2 研修日時 令和5年7月4日（火）
- 3 研修先 札幌コンベンションセンター（札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1）
- 4 研修目的 議員の資質向上と議会の活性化に資するため。
- 5 成果（具体的に）

・ひょうご震災記念21世紀研究機構 理事長 五百旗頭 真 氏

『ウクライナ危機後の世界と日本』

五百旗頭氏は、ウクライナ危機から日本人が変わったのでは？と感じる出来事があったと話した。それは、近所の奥さんから日本も核武装したほうがいいの？と質問を受けるようになったからだ。また、今までは無かった都会でもない地域からの講演依頼がきたそうだ。今回例としてあげた淡路市鳴門では、講演において住民が質問や意見を熱心だった。それを受けて『変わってきたんだなあー。』と感じたそうだ。五百旗頭氏は自分の考えに次の4つのうちどれが近いかとの問を会場へ投げかけた。○わが国は平和主義に徹し軍備を持つべきではない。○備えは必要だが専守防衛の範囲で軍備を持つべきだ。○専守防衛では足りないので反撃能力も必要だ。○周辺国にも劣らない軍備力が必用だ。会場の反応も様々だった。議員の集まりであるから関心があり学び情報も得て各自の考えもあるかもしれない。しかし五百旗頭氏が質問した事も含め、今後どのように各自が日本の在り方を考えていくかが大切だ。一般的にはテレビや新聞の情報で判断することが今までは多かった。現在、若い人においてはテレビや新聞もみていない方が多い。『自分の興味がある事』に国の在り方や政治が入っていなければ調べること関心を持つこともないだろう。地方議員の仕事として、いかに国の在り方に関心をもってもらえるか、まずは地元の在り方に関心を持ってもらえるように働きかける役目があると感じる。そのためには議員はテレビや新聞以外のところからも色々な事を学び共有し考えるきっかけを作ることが必要だ。

・政治ジャーナリスト 田崎 史郎 氏

『日本政治の舞台裏』

田崎氏は政治ジャーナリストとは、批判することが仕事ではなく、みんなに判断してもらおう為に仕事をする事と語った。

田崎氏が安倍元首相から直接聞いた、人の動かし方についての話も伺った。安倍元首相は一度目の総理大臣を辞任したとき、関わっていたたくさんの方が離れていく経験をしたそうだ。しかし、その中でも側に残ってくれる方がいた。色々大変なことがあったが、それは、信頼できる人かどうかふるいをかける出来事になったとのことだった。現在の岸田首相に変わるとき、このままでは河野さんの発信力で岸田さんが負けてしまうと感じた安倍さんは、高市早苗さんの票を岸田さんに乗せれば勝てるかと判断した。しかし、高市早苗さんは携帯に国会議員の電話番号がないくらい国会議員との人付き合いをあまりしない方だった、だから安倍さんがポイントゲッター繋ぎ役にならなければと考えたそうだ。しかし、ただ単に電話してもだめで貸しがある人に電話することが効果的だと。田崎さんは四回もこれを言われたそうだ。政策の違いがあれば選びやすいが違いがなければ借りがある人に返そうと思うでしょうと。安倍さんの伝え方は『今まであなたに私は一回も頼みごとをしたことありませんよね？今度は私の頼みごとを聞いてください。高市さんに票を入れてください』。安倍さんは貸しを覚えているが露骨には言わない。言うとなイナスイメージになる。だからそのような伝え方をした。貸し借りによって、その票を全部岸田さんに乗っけたので勝てたそうだ。

また、田崎氏は小泉進次郎議員（42才）の話もされた、議員から『田崎さんはこのあとなにがやりたいのですか？』と質問された。田崎氏は『このまま政治取材を続けて人間観察をしたい。』と答え、『うちの親父と同じ事を言いますね。政治は政策じゃない政策で対立が起きるなら政策の数だけ対立が起きる。そうじゃない人だ、政治は人間関係だ』と。

それらの話を聞き感じたことは、同じ地域で暮らす者同士、人間関係を大切にする。目先のお金だけで繋がるのではなく、お互いに正しさが違うと理解し、心から応援しあい、その先にお金もついてくる。互いに応援し、やる気がわく、やりがいがある、明るい地域をつくれる人間関係ができること。議員もその一助になると再確認した。

政治記者歴44年の田崎氏は『政治は川の流れである。』

川は常に流れている。この瞬間も澱んでも流れている。政治も同じ、この瞬間も動いている。だからそこを見るために取材する。取材しても取材しても、常に動いているので今話していることが半年後当たってないかもしれない。』と締めくくった。

清水町議員として常に新しい情報を学び共有していく役目があると再確認した。

別記様式（第6条関係）

令和5年7月7日

清水町議会議長 山下 清美 様

清水町議会議員 田村 幸紀

研 修 報 告 書

清水町議会議員研修要綱第6条の規定により、次のとおり成果を報告します。

記

- 1 研修名（主催者） 北海道町村議会議長会議員研修会（北海道町村議会議長会）
- 2 研修日時 令和5年7月4日（火）
- 3 研修先 札幌コンベンションセンター（札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1）
- 4 研修目的 議員の資質向上と議会の活性化に資するため。
- 5 成果（具体的に）

（1）ウクライナ危機後の世界と日本

ひょうご震災記念 21世紀研究機構 理事長 五百旗 真氏

- ロシアによるウクライナ侵攻で意外だったこと

- ① ロシアが軍事で圧倒できなかった
- ② ウクライナが対抗した
- ③ 米欧が結束した

- →経済制裁が功を奏した

ロシアへの経済制裁を中国がどう捉えるかがカギ

米中はグローバルヘゲモン（覇権国）

鍵は米中合意で停戦に圧力をかけること（米がウクライナ、中がロシアへ）

ウクライナは明日の東アジア＝中国の軍事力をいかに抑えられるか

- 日本はどのように備えるか

相手に戦争をさせない平和を守る

一定の抑止力を保持する自助能力を持つ

- 日本の国際的役割＝グローバルファシリテーターになること

- ・ 経済大国になっても、軍事大国にはならないこと
- ・ 心を交わすこと
- ・ 途上国を支援すること

政治家は権力闘争や利権追及ではなく有権者である国民の幸福に向き合い、国内のみならず外交問題にも真摯に立ち向かって欲しいと願う。

日本の行く末は、有権者である国民の正しい判断が求められる。

(2) 日本政治の舞台裏

政治ジャーナリスト 田崎 史郎氏

- 政治は浮き沈みが激しく、不遇の時のお付き合いこそ密に、そして関係を維持することが重要＝人脈形成
 - 岸田政権の重点施策
- ①安全保障（防衛予算を GDP の 1%→2%へ＝反撃する能力を持つこと）
 - ② 少子化対策（男性が当たり前に育休取得する社会へ）
- 今後の情勢

自民党総裁選 2024年9月

衆議院議員の任期 2025年10月30日

2024年通常国会では、サイバーシティ議案や子ども子育て政策の具体的財源が議論されるため、解散時期は総裁選後ではなく今年度中になるのではないかと

→解散の見通し 2023年9月解散・10月（22日）投開票？

- 阿部晋三元首相から学んだ人を動かす術

～人間関係は貸し借りでできている～

国会議員も地方議員も、有権者（議員同士）の貸し借り：ギブアンドテイク

- 「政治は河の流れ」～清らかでも淀んでいても常に流れている～

時代や社会情勢や執行体制如何に関わらず、良くも悪くも政治は流れ続けているということ

言葉の解釈はそれぞれだが、国民として、有権者として、そして地方議会議員としてその意味を自分なりに解釈し、まちづくりが加速しているときも停滞しているときも、まちのミライを見据え、町民の幸福感を増すことができるよう清らかな政治活動を心がけていきたいと強く感じた。

別記様式（第6条関係）

令和5年7月24日

清水町議会議長 山下 清美 様

清水町議会議員

只野 敏彦

研 修 報 告 書

清水町議会議員研修要綱第6条の規定により、次のとおり成果を報告します。

記

- 1 研修名（主催者） 北海道町村議会議長会議員研修会（北海道町村議会議長会）
- 2 研修日時 令和5年7月4日（火）
- 3 研修先 札幌コンベンションセンター（札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1）
- 4 研修目的 議員の資質向上と議会の活性化に資するため。
- 5 成果（具体的に）

「ウクライナ危機後の世界と日本」と題して五百旗頭真氏が世界情勢を語りてくれました。その中で私が印象に残ったのは、経済制裁はロシアではなく、中国に効いているという点でした。日本としては、中国が動いて台湾などを侵攻すれば大変なことになるのだから大変だと思いました。自国民を守る、自町民を守るのが政治家なんだと感じました。

「日本政治の最前線」と題して安倍政権、岸田政権について講演していただきました。特に印象的だったのが衆議院が解散して総選挙、投票が行われるのが10月22日だという予想でした。少子化対策や防衛費予算の増額などは所得税、法人税などの増税で対処すると言っていたのでこの選挙で岸田政権が信任されれば増税という事になるので我々の生活にも町政にも影響してくる。

別記様式（第6条関係）

令和5年7月14日

清水町議会議長 山下 清美 様

清水町議会議員 川上 均

研 修 報 告 書

清水町議会議員研修要綱第6条の規定により、次のとおり成果を報告します。

記

- 1 研修名（主催者） 北海道町村議会議員研修会
- 2 研修日時 令和5年7月4日（火）
- 3 研修先 札幌コンベンションセンター（札幌市）
- 4 研修目的 議員の資質向上
- 5 成果（具体的に）

【講演1】

「ウクライナ危機後の世界と日本」

ひょうご震災記念21世紀研究機構 理事長 五十旗頭 真 氏

講演の内容からして報告する成果・コメントはなし。

現在のウクライナ紛争の地政学的及び歴史的考察からして的確な情勢分析とは思われず、既存の報道内容を超えるものでもなく、報告できる内容がない講演であった。

【講演2】

「日本政治の舞台裏」

政治ジャーナリスト 田崎 史郎 氏

講演の内容からして報告する成果・コメントはなし。

令和5年7月5日

清水町議会議長 山下 清美 様

清水町議会議員 鈴木 孝寿



研 修 報 告 書

清水町議会議員研修要綱第6条の規定により、次のとおり成果を報告します。

記

- 1 研修名（主催者） 北海道町村議会議長会議員研修会（北海道町村議会議長会）
- 2 研修日時 令和5年7月4日（火）
- 3 研修先 札幌コンベンションセンター（札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1）
- 4 研修目的 議員の資質向上と議会の活性化に資するため。
- 5 成果（具体的に）

上記日程において研修会が開催された。13:10よりひょうご震災記念21世紀研究機構の理事長 五百旗頭 真 氏の「ウクライナ危機後の世界と日本」と題して、講演が行われた。

この戦争を機に日本で変わった点は、防衛予算がこれまでGDPの1%とされていたものが、2%になった点。このことについては朝日新聞や毎日新聞は大きく取り上げたものの、国会における論戦も総務省の放送法に関連する無意味な議論が行われ、実質的に与野党の合意はないものの、みなし合意がされたと個人的には理解している。

ウクライナとロシアの戦争により、専守防衛の日本の考え方から、多くの国民が攻撃されないための武器保有容認の世論が実質高まり、今回の参加議員のより多くは、一歩進んだ日本の防衛体制を容認したと思える一部状況が見られた。

また、講演における講師の国際政治の分析において、凶弾に倒れた安倍元首相の世界における平和への貢献度を聞くことにより、このことは将来に高く評価されることと確信した。これは、欧州と米国との国際的な摩擦に対して、その隅をついたロシアの侵略に対して、世界が一致してロシアに対して厳しく対処できたことは、これまで故安倍元首相の政治手腕であったことは、国内より国外で高い評価を得ていることの表れとして理解するところである。

戦争がいつまで続くかはわからないものの、今後、防衛費の中身やそれに関連する法律の整備に際し、令和6年以降増税はしないとのことだが、全体予算の配分等において注視していくことが重要と考えられる。

15時00分より政治ジャーナリストの田崎 史郎氏による「日本政治の舞台裏」と題して講演が行われた。

田崎氏も総じて故安倍元首相の世界におけるリーダーシップを高く評価し、そのことは国際的な政治の中で、平和への日本の役割を十分に果たしてきたことを裏付けるものと感じた。

田崎氏の講演においては、今後の衆議院選挙(解散選挙)についても言及があった。予測としては9月末解散、10月15日または22日投票日で行われる可能性を示唆された。その中で、北海道は昔から社会党王国と言われるように、現立憲民主党が強い勢力を持っているものの、国内的には次回選挙後野党第一党となるのは厳しい状況であり、それに代わって、日本維新の会が台頭することが予測されるとのこと。共産党や公明党は実質得票を減らすことが予想される状況を踏まえ、次回選挙はこれまでとは違った形になると考えられる。

来年以降、防衛予算・子育て予算等、通常国会においてその中身が濃い状況を見ると、スケジュール的には今年度の選挙が必要となる。来年は自民党の総裁任期も重なることもあり、更にはセキュリティクリアランスの整備を含め選挙は本年10月が濃厚との事であった。

まとめとして

政治評論家の話は面白い。しかしながら、地方自治体の議会議員には、政治状況というよりは、地方活性化への考え方やその場合の議員の役割について政治色より学術的な講演の方が望ましいと考える。

昨年度も参加した中で、今回と近い内容であって、研修報告を書ける内容ではないとの事から、研修報告書の提出を議会全体で見送った経緯がある。

昨年からの反省が無い中で、清水町議会としてこの北海道町村議長会の研修に参加するにあたり、今後は講演内容によって議員派遣について考える必要があると思われる。

今後、山下議長におかれては、管内議長会、または道内議長会の会議の席にて、この事の確認と今後の考え方について確認をいただき、議会運営委員会においても、本当に公費を使って議長会の研修を受講する必要があるかを問う必要性を考える。このことについては、次回開催される全員協議会においてもその考えを確認しつつ、この講演を改めて機会として、慎重な公費支出の考えについて行動に移したい。

別記様式（第6条関係）

令和5年7月21日

清水町議会議長 山下 清美 様

清水町議会議員 橋本 晃明

研 修 報 告 書

清水町議会議員研修要綱第6条の規定により、次のとおり成果を報告します。

記

- 1 研修名（主催者） 北海道町村議会議長会議員研修会（北海道町村議会議長会）
- 2 研修日時 令和5年7月4日（火）
- 3 研修先 札幌コンベンションセンター（札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1）
- 4 研修目的 議員の資質向上と議会の活性化に資するため。
- 5 成果（具体的に）

研修1. ウクライナ危機後の世界と日本 講師 五百旗頭 真 氏

主催者から配布された講演のレジュメには、

- 1 プーチンのウクライナ侵攻
- 2 二つの戦線
- 3 ロシアと中国の連動
- 4 日本の外交・安全保障

とあるが、ほぼ1だけで持ち時間の1時間半を超えていたと述べている。

- ・戦争は始めることはできるが終わらせるのは難しい。
- ・プーチンはピョートル大帝やスターリンと並ぶ歴史的人物になりたい。
- ・侵攻によってあっという間に傀儡政権を作るはずだったができなかった。
- ・戦争を終わらせるためにはトップ交代か強力な仲介者が必要。
- ・戦争をさせないための努力が必要。

といったことを具体的な例を交えつつ述べていた。

五百旗頭氏は、京都大学で政治学を専攻し、広島大学、東京大学などで客員教授を務め、ハーバード大学など海外にも赴き、日本政治学会理事長、防衛大学校長、ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長などを歴任している。また、小淵内閣や小泉内閣で懇談会の座長や委員を務めるなど、話題の引き出しは無限にあるのではないかと思われる。

ただ、氏が最も言いたかったことは、プーチンのウクライナ侵攻によって日本国民の安全保障の意識が変わったこと、そのうえで戦争をさせないため自助努力が必要だということだろうと思う。

戦争をさせないために何をすべきか、どう考えるかは聴講した町村議員への宿題にされた。

研修 2 日本政治の舞台裏 講師 田崎 史郎 氏

安倍、菅両元総理と親しかったという田崎氏が、いかに情報を得てテレビ出演などによって知名度を上げ、全国を講演して回るに至ったかを知ることができた。

浮き沈みのある政治の世界で人脈を作るには、不遇な時に関係を維持することが大事であり、そのことで信用を得て質の高い情報を得ることができたという点はずける話であった。

岸田首相については、権力掌握術（人事）、判断力（ない）、性格（頑固）などの分析、安全保障、少子化の状況と対策について独自の視点で話していた。

政局について、9月解散、10月15日もしくは22日投票と予測していたが、政治は川の流れのようにこの瞬間も動いており、予想通りにいかないものだと締めくくっていた。

氏の講演を政治漫談と受け止めれば一時の楽しい時間だったとすることもできるが、自分の人心掌握力のなさを再認識する機会だったとすれば、今後に向けての重い課題である。

.....

令和5年度北海道町村議会議員研究会

7月4日 札幌市で

< 7月4日 会後後の世界と日本 >

五百旗頭 真

日本を取り巻く近隣の国々、中国、北朝鮮等の^恒勢
今日のわが国は「日米の東アジアの
主権国家としての日本の位置、外交、防衛とどの様な
方向へ進むべきか」

防衛費の増額等、自衛能力を高め、他国に対応
出来る力を高め、憲法の問題等、しっかりと国会の場
で議論し、国民と共に考え、理解を得るためには、どうすれば
よいか、過激化や地域格差の問題、食料の
安全保障等、課題は山積みである

山崎

< 日本政治の舞台裏 >

田崎史郎

自民党、公明党、岸田政権以降、政権と中核の他
(産、野党等々他—国民)には依るべき

衆議院の解散、総選挙はいつに存するか

「政治は川の流れに似て、常に流れていくもの」

令和5年度
北海道議会議員研修会

令和5年7月5日

議員氏名 佐藤 亨

件名	
五百旗頭 眞代 いおきへ 本誌	ウクライナ危機後の世界と日本
田崎史郎	日本政治の舞台裏

ウクライナ危機後の世界と日本

五百漢頭 真
いおまひ めこ

90.年代のウクライナ侵攻

米英欧日の第三次世界大戦へと繋がる戦争は、おこらない

日米同盟 ~~締結~~ 締結条約があるが、アメリカが日本に条約であつた
防衛

アメリカが巧撃すれば、日本は相手国に巧撃返事が出来る。法律は
片手落ち

トランプ前アメリカ大統領については、世界から見離れたい。味方は日本の ~~隣国~~ ^{安部元首相}
中国は台湾侵攻に踏み出すかもしれない攻撃出来る

ロシアへの経済制裁は、出来る、~~しかし~~ 効果なし。自衛隊は出来る
ロシアがウクライナ侵攻時にオバマアメリカ大統領は動かさなかった

個人個人に心配はしたが、ロシアは北海道侵攻

複雑な世界情勢を見るとき細かい衝突が続々中、何時政めだか
出来るか判らない状況にあると思う。

日本政治の舞台裏 田崎史郎

今国会の解散話 ^は ない、決める、決断出来ない

岸田総理 ^は がんこ、リーダ ^は ちよものは 資質 ^は がんこ ^は ちよの

岸田前総理 退陣所信証明のみで退任。

政治家の天変は、集まるメンバー。取巻きが少なく、消え残った人の人柄を見る。新しく入ったメンバーとの関係の維持として再度の総理大臣。努力で継続を繰り返して、国会論戦はしない

今現在 少子化対策 ^は 取りかかっているが、難しい

現在 3兆5千億円 予算執行しているが、人口 1億2千万人 → 8千万人に減る
このうち外国人が 800万

今、家庭は1人1人に負担がかかる。中からは男性が参加する体制づくり。育児休業制度を増やす 50%目標、補助率 80%目標、
現在岸田内閣は、テレビ番組 鎌倉幕府権力闘争と同じ。

安全保障計画、防衛費(反撃と撃)2倍予算

これから日本社会、国会運営、政事主導、政治家選挙における

国の方向性は、国民が選挙で決めるもので、候補者の人格等

見極める必要がある

令和5年度 北海道町村議会議員研修会

令和5年7月4日

○ウクライナ危機後の世界と日本

講師 石井慎頭 貞氏

・戦争は権力者(独裁者)1人の判断で始まる。

・休戦、停戦は多くの合意が必要である。

・休戦、停戦の条件は

1) ウクライナ、ロシアの両国が、自国が勝てないと判断したとき

2) プーチンが失脚又は死去したとき

3) アメリカ、中国の仲介による

・日本の安全保障について、軍戦力を備える切っ掛けになったのは、

今の戦争は、一国の争いではない、同盟との名の下に関係国が

広がっていく。

絶体には戦争はするべきでない。

○日本政治の舞台裏

講師 田崎史郎氏

・ジャーナリストとして、人脈づくりを、情報を正確に伝えること。

自らが行動している。

・各政党が、絶えず選挙を意識しながら活動している。

国を思い、国民を大切にしたい政治を望む。

中島里司

清水町議会議長 山下清美 様

清水町議会議員 山下清美



研 修 報 告 書

清水町議会議員研修要綱第6条の規定により、次のとおり成果を報告します。

記

- 1 研修名（主催者）..... 令和5年度 北海道町村議会議員研修会
- 2 研修日時..... 令和5年7月4日
- 3 研修先..... 札幌コンベンションセンター
- 4 研修目的..... 議員研修のため
- 5 成果（具体的に）
 - 1 「ウクライナ危機後の世界と日本」

ひょうご震災記念21世紀研究機構 理事長 五百旗頭 真 氏

 - 1 プーチンのウクライナ侵攻
侵攻前○ロシアとウクライナは一体との考え
○ロシアは主、ウクライナは従、主従関係の考え
○偉大なロシアを作りたいと考え、ロシア史再興を試みた
侵攻中○压制できない
○G7で仲の悪かった米欧⇒共通の目的に米欧の絆が深まった
○経済制裁によるロシア経済のダメージは、中国に対しても効果があった
また、中国高官が袖の下を蓄えている欧米の口座が凍結されては困る
戦争は、一人に権力者で開始するが、終わるときは全体の意思が必要になる。
終結は①双方どちらかが勝てないと思ったとき
②侵攻を始めたプーチンが交替したとき
③米中の発言等、仲介力による
プーチン体制の行方⇒来年が岐路
 - 2 ロシアと中国の連動？

米が優位な中では中国からは連動しない⇒秋の党大会前の緊迫
習近平主席の描く夢は、中華の大国（帝国）を目指している。
中国法によって、1992年に尖閣諸島、南西諸島を中国とした
（フィリピンから米軍が引き上げたのを機に、軍が駐留しない国を米軍は
護る気が無いととらえて行われた。）

3 日本の外交・安全保障

(1) 近隣の現状打破諸国一かつてないリアルな危機の中での国際的提携

中国・朝鮮・ロシアの動きに対応

(2) 巨大な軍事力格差にどう備えるか—自助努力

中国・朝鮮・ロシアの相手国とさせないようにするためには

(3) 日米同盟—リスク要因としてのアメリカ政治

進化が必要と思われる。

(4) グローバル・サウスへのアプローチ

戦争をさせないためにどうすべきか？

欧州、豪州、インド東南アジアで、日本はよき世話役となること。

(5) 経済社会の再強化

II 「日本政治の舞台裏」 政治ジャーナリスト 田崎史郎氏

1 44年の記者人生で心掛けてきたこと

○人脈づくり

政治家は浮き沈みがある⇒終わったと思われた以降が大事

政治家が持っている質・量

安倍一次後周りから誰もいなくなったが、そこで残った人、その後付き合うようになった人がいる。

○維持が大事⇒何回も会う努力をし続けること

○人の情報は信用しない⇒自分が聞いて確認する。

○政治は川の流れ⇒常に流れている、今この時も動いている。

2 岸田首相はどういう人か？

○周りの意見を聞くが、自分の思ったとおりに人事をやる。

(昨年、一番見たテレビ番組は「鎌倉殿の13人」)

○いじめられて天下を取る。(歴史対談で「家康」を好む)

○頑固⇒決めるべきは天下を取った者(他、執着心、忍耐力)

3 岸田政権誕生の裏側

安倍元首相が、貸しがある人に電話をして、そのことには触れずに頼む。

⇒自民党議員間の貸し借りで決まった。

4 終わりに

人間関係を作っている人が票につながる。